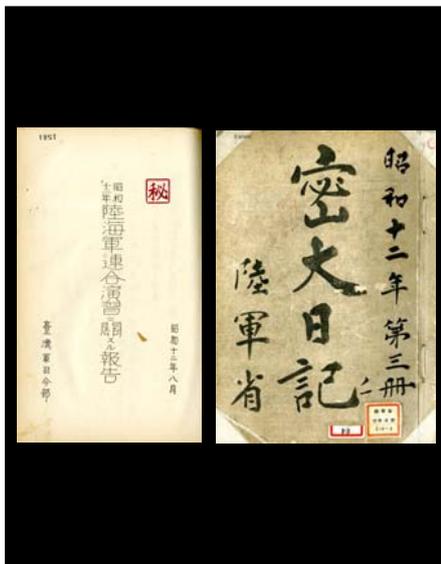


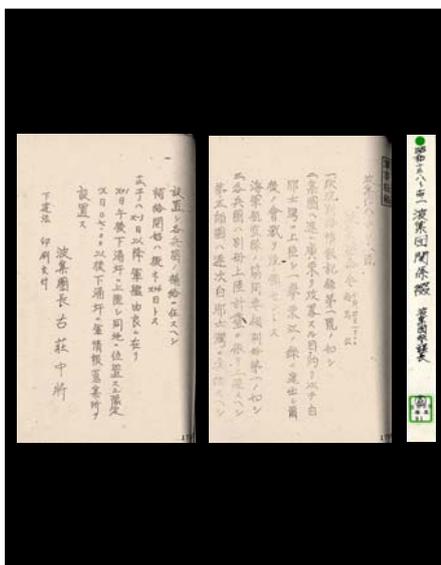
平成 25 年度は、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

ふるしょう もとお  
《 古 莊 幹 郎 1882～1940年 》  
—熊本県出身の陸軍大将—



陸海軍連合演習に関する件（登録番号：陸軍省-密大日記-S12-3-13）

古莊幹郎大将は、明治 35 年 11 月、陸軍士官学校（14 期）を卒業後、第 11 師団長、航空本部長、第 21 軍司令官などの要職を歴任しました。この史料は、古莊中将が台湾軍司令官のとき、当時の陸軍大臣杉山元大将に報告した「昭和十二年陸海軍連合演習ニ関スル件報告」（昭和 12 年 8 月 18 日付）です。「陸海軍連合演習」は、「陸海両軍各種演習ノ一部若ハ全部ヲ連合シ陸海軍協同作戦ヲ演練スル」ことを主目的とする演習で、明治 23 年に初めて実施されました（当時は「陸海軍連合大演習」と呼称）。しかし昭和 12 年の台湾軍の演習では、7 月上旬の約一週間、海軍の第三艦隊及び馬公要港部と協同して「高雄附近ニ於テ陸海軍連合演習ヲ実施」する予定でしたが、7 月 7 日に支那事変が発生したため「予定ヲ変更実施シ演習ヲ中止」することになりました。



波集団関係綴（登録番号：支那-支那事変南支-91）

支那事変が北支から中支へと拡大していく中、香港・広東等を中継基地とする華南地区の補給路は、援蒋ルートのうち最大のものでした。大本営は、この補給路を遮断するため、昭和 13 年 9 月 19 日、台湾軍司令官から第 21 軍司令官に転じた古莊中将に対して広東攻略を命じました。この史料には、広東攻略に関する第 21 軍（波集団）の命令などが綴られています。そのうち「波集作命甲第一号」（昭和 13 年 10 月 4 日付）では、「集団ハ速ニ広東ヲ攻略スル目的ヲ以テ白耶士（バイヤス）湾ニ上陸ス」、「各兵団ハ別冊上陸計画ニ依リ上陸スヘシ」としています。10 月 12 日早朝、白耶士湾に上陸した第 21 軍（3 個師団基幹）は、上陸 9 日目の 21 日には広東を攻略し、同時期に実施された武漢攻略作戦と相まって、中国側に大きな影響を与えました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課  
専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）  
外線：03-3713-5912  
FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>